

〔二水記〕永正十七年八月一日丙戌早朝御憑御太刀禁裏宮御方等進上如例、御返即出訖、御筵不數如何

九月十二日、女中御憑、去月無之、今日各進御、銚子云々、入夜果了、御座敷小御所也、其儀如常、

大永六年八月一日壬子、入夜參内、御盃儀如例、今日八朔、早旦進上、御太刀如恒、御返即被出了、二

日、申刻參番、女中御憑、御銚子事有之、毎年儀也、於常御所數刻、帥卿祇候、其外皆以番衆許也、二位殿

三位殿等被參、各被著黒衣了、三位殿先帝御宇花帽子御白衣也、今日各始被著黒染之衣畢、七年

八月一日丙午、早旦略御憑御返則令拜領了、入夜參内、御盃儀如恒、廿五日、午後參内、女中有銚

子事、御憑例年之儀也、地下者窪田兄弟祇候也、及數獻了、中務卿宮、梶井門跡、依御室御不例竹内殿等

令候給、男衆少々祇候也、御座敷御三間、二位殿被參了、

〔長祿二年以來申次記〕八月朔日、公家大名 外様衆 御供衆 造宮司一御對面次第、同御盃以下同

前朔日也、但八朔御憑ニ御取亂之間、御盃被略時も在之、

〔殿中申次記〕八月朔日、一公家、大名、外様御供衆出仕、御對面在之、一御憑在之、目録別紙有之、

禁裏様へ參了一初統、一折例年進、佐々木四郎三郎 一木練一籠例年進、西林院、一同一籠例年進、

宇治報恩院、一同一籠例年進、鶴原五郎 一柘榴一折例年進、等持寺、一松茸一折例年進、

大光明寺、禁裏様へ參了一初鴈一上之、朝倉彈正左衛門尉 一初鴈一上例年進、武田伊豆守何も式日

〔年中定例記〕八月朔日、御對面御祝、毎月の如し、

一御憑、禁裏様へ御進上、目錄在之、大高檀紙 一枚、伊勢守調之御使傳奏、御返まいる、御使同前攝家、門跡、公家、大名、

外様、御供衆、總番衆、頭人奉行、其外ことく、進上、地下衆、職人、御牛飼、河原者、さんしよの者ま、

で、似合の物を進上、大和國衆、奈良の門跡坊官、上杉雜掌判門田、いにしへは、かい伊勢守被官、

川越中なども進上申候、七月晦日、八月朔日、同三日、兩三度、右大名衆は御進上にて、近年は朔日

の分進上候、又女中衆、御比丘尼衆、賀茂衆、五靈、今熊野神子も進上申候、大方進物共定候、御返し